

鳥取県立美術館の運営状況等について

令和8年6月25日
地域社会振興部美術館

鳥取県立美術館は、PFI事業者の鳥取県立美術館パートナーズ株式会社を指定管理者とし、令和7年3月30日に開館してから2年目となりました。1年目の来館者は約31万人となり、目標の20万人を上回り、県内外から多くの方々にご来館いただきました。

2年目となる今年も引き続き、魅力ある企画展の開催に加え、観光誘客など地域振興との連携や教育委員会と一体となった「アートを通じた学び」などを一層推進していきます。

1 開館初年度の利用者数等

期 間	利用者数	うち、企画展・コレクション展観覧者数
令和7年3月30日～令和8年3月31日	317,659人	154,170人 ※企画展・コレクション展 108,725人 ※コレクション展のみ 45,445人

<利用者数の推移>

3月30日（開館初日）	3,500人が利用
4月20日	3万人を達成
4月26日～5月6日 （ゴールデンウィーク期間）	24,978人（館外イベントを含む。） ※5/5(月・祝)には5,562人（1日の最多利用者数）が利用
6月14日	10万人を達成
6月28日・29日	コレクション展観覧者の2日間計5,436人 ※日本海新聞社の法人スポンサー「コレクション展パートナー」によるコレクション展の観覧無料デイ及びイベント「日本海新聞&NCN アーッと楽しい感謝祭 in 県美」の開催 ⇒2日間の利用者計9,309人
8月2日	夜間開館時間帯 2,078人 （美術館前の史跡公園で倉吉打吹まつり開催 まつり来場者:2.4万人）
8月9日～8月17日 （お盆期間）	24,144人 ※月曜日も開館 ※8月9日・10日の夜間開館時間帯の利用者計1,672人
9月12日	20万人を達成 ※「とっとり県民の日」として、コレクション展観覧無料(通常:一般 400円等)
9月27日・28日	やきとり JAPAN フェスティバル 2日間の利用者計5,340人 （北海道から沖縄まで焼き鳥の名店が終結 イベント来場者:9.5万人）
10月19日	彬子女王をお招きした特別記念講演会 約120人が聴講 ※「The 花鳥画展」の関連プログラムとして実施
2月28日	30万人を達成
3月8日	303,939人（30万サンキュー・サンキュー）セレモニー
3月29日	開館一周年記念イベント「どんどこ！巨大紙相撲-とっとりけんぴ場所-」 ※巨大紙相撲制作のための段ボールを提供いただいた三和段ボール工業株式会社の協賛（コレクション展パートナー）によるコレクション展の観覧無料デイも実施

<各企画展の観覧者数>

- ・「アート・オブ・ザ・リアル」（3/30～6/15）50,863人
- ・「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」（7/19～8/31）34,920人
- ・「The 花鳥画-日本美術といきものたち」（10/11～11/24）17,237人
- ・「CONNEXIONS | コネクションズ-接続するアーティストたち」（2/7～3/22）5,705人

<30 万人サンキュー・サンキューセレモニー>



303,939 人目のお客様をお迎えした記念
セレモニー。

<どんどこ！巨大紙相撲-とっとりけんび場所->



1階ひろまを会場に、美術館は大歓声に
包まれ、多くの来場者とともに賑やかな
一日となりました。

2 開館2年目の展覧会等

期 間	利用者数	うち、企画展・コレクション展観覧者数
令和8年4月1日～令和8年6月23日	40,659人	17,660人 ※企画展・コレクション展 12,116人 ※コレクション展のみ 5,544人

(1) 企画展

ポップ・アート時代を変えた4人” POP ART:THE FAB 4! & 4 SPECIAL GUESTS” (4月11日～6月14日【終了】)

[概要]

- アメリカのポップ・アートを代表する4人のスター作家 ウォーホル、リキテンスタイン、ラウシェンバーク、ジョーンズの版画作品を中心にポップ・アートの魅力に迫る企画展(巡回展)。
- ウォーホルがデザインしたR・ストーンズのレコードジャケットなど、音楽、映画、ファッションなどにも大きな衝撃を与えたポップ・アートの当時を物語る作品を展示。
- 4大作家の他、「LOVE」の単語を正方形に配置した作品で知られるロバート・インディアナなど、ポップ・アートを担った作家を「特別ゲスト」として紹介し、ポップ・アートの多彩な表現を伝える。

マンガを拓く 谷口ジロー展 (7月11日～8月30日)

[概要]

- フランス政府から芸術文化勲章を受章し、ヨーロッパで高く評価されている漫画家谷口ジロー。近年は日本でも「孤独のグルメ」、「歩くひと」のドラマ化や、今秋映画化の「遙かな町へ」など作品が広がりを見せており、本展では約半世紀にわたる創作活動の中で生まれた多彩な作品を原画等を通して紹介。
- 動物、自然、文芸、SF、散歩、食、家族など様々なテーマの作品の原画・複製画が150～200点程度大集合。「絵に語らせる」丁寧な筆致と、深く緻密な人間描写など、谷口ジローの表現力の秘密を紐解く。

映画「遙かな町へ」公開記念 谷口ジロー特別展 (10月頃)

[概要]

- 映画「遙かな町へ」の公開を記念し、県立美術館内(1階)等において、谷口ジロー特別展を開催。
- 映画メイキング映像の放映をはじめ、撮影時の写真や複製画の展示等を実施。

生誕130年 前田寛治 —ポエジイとリアリズム (10月10日～12月13日)

[概要]

- 鳥取県が誇る洋画家・前田寛治の生誕130年を記念し、前田寛治の代表作を含む作品約80点を展示。
- 前田が仲間とともに設立した「一九三〇年協会」の創立100年も併せて記念し、創立メンバーである里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三、木下孝則をはじめとする同時代の洋画壇の寵児たちを一堂に紹介(巡回展)。

ゴジラ生誕70周年記念 ゴジラ・THE・アート展 (2月11日～4月11日)

[概要]

- 今なお色褪せず日本だけでなく世界中を魅了する存在であり続ける「ゴジラ」。
- 養老孟子氏をゼネラルプロデューサーに迎え、現代のクリエイターたちがゴジラという存在をテーマに制作した挑戦的なアート作品群による大規模な展覧会(巡回展)。
- ゴジラの造形美や映像の魅力についても、各種ミニチュア映像、資料などの展示により紹介する。

(2) コレクション展

主に5部屋のコレクションギャラリーで、所蔵作品を中心として、鳥取県ゆかりの作家や国内外の作家による優れた作品を、ジャンル別、テーマ別でご紹介します。

(3) アートを通じた学びの場「アート・ラーニング・ラボ(A.L.L.)」の主な取組

①MUSEUM START BUS(小学4年生全員招待)

県内すべての小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部の4年生を招待し、学芸課スタッフやボランティアなどファシリテーターが案内役となり対話をしながら作品鑑賞を行うミュージアム・スタート・バスについて、開館2年目以降も継続して実施。

<令和8年度の申込状況>

117校(前年度比+7校)	※特別支援学校からも1校あり(倉吉養護学校)
※前期(4月～9月)64校、後期(10月～3月)53校	

【参考】令和7年度の実施状況

県内の小学校・義務教育学校(118校)のうち、以下のとおり実施。

①来館した学校・人数 110校・4,686人(児童数:4,331人 教員数:355人)

②教職員への事後アンケート(81校95名が回答)

○鑑賞プログラムの活動内容	満足:90.5%、やや満足:9.5% 計100%
○子供たちの反応	とてもよかった:91.6%、よかった:8.4% 計100%
○自由記述	・教科書に載っているものだけじゃない生の作品を観ることは情操を養う上でとても大切なことだと思う。人は歳を重ねると多様な価値観に晒され、心の中に無意識のうちに偏った見方や考え方、自分の思いを素直に表現することの恥ずかしさも生まれる。そんな中で、この年代でしか感じることでできない「誰かの受け売りではない」感じ方、それを素直に表現する機会を公教育で行うことは子ども達にとってとても重要だったと思う。 ・非常に良い機会になった。授業と絡めて行うことで学びが深まると思う。 ・こういう経験をすることで、どんどん県立美術館に行きたくなるのではないかなと思った。 ・子どもたちが本当に楽しんで美術鑑賞ができていた。美術の楽しさをほかの先生に話す姿など、日頃見られない児童の様子もあった。 ・児童だけでなく、引率教員も作品の見方が変わったし、作品を観る児童の姿に「そういった風に見ているんだ。」「そんな見方もあるのか。」と新しい発見ができ、とても有意義な時間となった。 ・バスや入館料の免除、ファシリテーターの方の連携等、とてもありがたい。子どもたちが目を輝かせていて、美術の世界に触れられてよかった。

②教育普及的展示事業

子ども達をはじめとする幅広い年齢層の方々が多様なアートに触れ、アートを身近に感じ、アートを通じて学ぶことのできる展覧会を開催します。

【R8 予定】「光ゆうらん」(会期:7/14-10/7)

作品に触れてインタラクティブ(双方向)に鑑賞できるデジタルアートを制作する個人スタジオ「pook(プック)」の作家・本多大和さんを迎え、鳥取県では初めての個展を開催します。

本展覧会では、デジタルアートと深く結びついている「光」をモチーフとした作品を展示します。

【R7 実績】「小松宏誠展 光と影のモビール けしきと歌」(会期:9/20-11/9、来場者:21,740人)

鑑賞者の年齢層のみならず、車椅子やストレッチャー等での鑑賞も無理なくできる会場とするために、空間全体が作品となるインスタレーション作品を中心とする展覧会とし、天井から作品をつるす、壁面や天井に映像を投影するなど、床面にものを置かないような会場設営を実施しました。

③ユニバーサル美術館促進事業

障がいのある方や高齢者等が、美術館で作品鑑賞を楽しんでいただけるよう特別鑑賞プログラム等を実施します。

【R7 実施例】ハートフルスペース(不登校やひきこもり等の若者の自立支援施設)利用者や障がい者施設利用者等を対象とした特別鑑賞会を実施など。

④その他

ア)「朝鑑賞」充実事業

子ども達の思考力やコミュニケーション力、自己肯定感を育む場として有効と言われている「朝鑑賞」の普及・全国発信に向けた教材作成やシンポジウムを開催します。

イ)教育普及強化事業

対話鑑賞に関する研修や授業相談など、学校現場のニーズに対応した教員を対象とした研修や、子ども向けのアート体験から本格的なものづくりなど、幅広い年齢を対象とした実技や演習を伴う体験・参加型のプログラム等を実施します。